



いじめを考える

本日、12月10日は「世界人権デー」です。また、この日を最終日とする1週間が「人権週間」です。橘中学校でも、毎年この時期に人権を考える取組を行っています。今年は、朝の時間に人権に関する読み物資料を読んだり、「人権すごろく」に取り組んだり、手話を学んだり、認知症の方のお話を伺ったりと、学年によって取組は違いますが、様々な学習を行ってきました。学校生活の中にある人権課題の一つは「いじめ」です。文部科学省が10月末に公表した資料によると、令和6年度における中学校でのいじめの認知件数は、全国で135,865件（生徒1,000人あたり42.6件）です。長崎県の公表資料では、令和6年度における県内公立中学校でのいじめの認知件数は721件です。統計からも分かるとおり、本校も例外ではなく、周囲の生徒との関係において、辛い思いをしている生徒がいます。

本校では、人権週間の初日、12月4日（木）に全校集会を開きました。この集会で、生徒会の皆さん、劇をとおしていじめを無くそうと全校生徒に訴えました。私もこの時に生徒の皆さんに次のことを話しました。御家庭でも、いじめについて話題にして、親子で考える機会をつくっていただきたいと思います。

令和7年12月4日 全校集会 校長のはなし

- この素晴らしい橘中学校でとても残念な出来事が起こっています。この学校で起こっている残念なこと、それは「いじめ」です。
- 人が絶対にやってはならないことは、たくさんあるけれども、最もやってはならないことは、人のいのちを奪うこと、その次にやってはならないことが人を傷つけることです。人を傷つけることは肉体的にも精神的にもダメです。「いじめ」は、皆さんも知っているとおり、人を傷つけることです。
- ただ、悪気はなくても自分が取った言動で相手の心を深く傷つけてしまうことがあります。その時は、傷つけた人は心から謝って、傷ついた人は許して、そうやって人間同士の関係はより深くなっていくのです。
- 私が知っている「いじめ」は、氷山の一角かもしれない。この学校に苦しんでいるのに「助けて」と声に出すことさえ怖くてできない人がいるのかもしれない。そう考えると、みなさん、胸が苦しくなりませんか。苦しくなる人であってほしい。
- 自分はいじめていない、自分には関係ないと思っている人にも考えてほしい。周りに「いじめ」がっているのに「ダメだ」と言わなければ、無言で見ているだけならば、「いじめ」を行っている人は、注意されないからやってもいいんだ、みんなが認めているんだと勝手な誤解をして「いじめ」をさらにエスカレートさせてしまいます。
- 自分はやってない、ただ、笑っただけという人も考えてほしい。笑いは、「いじめ」を否定するのではなく、「いじめ」を肯定する行為です。笑いは、場面によっては一緒に相手を傷つける強い攻撃手段にもなるのです。
- 皆さん、相手を傷つける言動、やめましょう。そして、みんなで止めましょう。
- 勇気を出して「いじめ」はダメだと、みんなで声をあげましょう。
- これができない、みんなが心から誇れる橘中学校にはなりません。
- そして、もし、誰にも言えずに悩んでいる人がいたら、誰でもいいから相談してください。
- 今日、12月4日から人権週間がはじまります。人権、これは、誰か一人が大切にするものではなく、全ての人が大切にすることしか守られないものなのです。このことを心に刻んでください。

